右之通、御作事奉行小普請奉行江相達候間、可被得其意候、

四月

宅地引料

〔享保集成絲綸錄三十〕元祿十丑年十一月

御用付而、宅地被召上面々、引料被下之、所謂、

引料被下員數

一六千石より三千石迄、銀百枚宛、

一三千石之內より千石迄、金五拾兩宛、

一千石之內より三百石迄、金三拾兩ヅヽ、

一三百石之內より五拾石迄、金貳拾兩ヅヽ、

以上

引越料

〔吹塵錄二十九〕德川氏遠國御役人拜借金高書

一金三拾兩　二條御藏奉行

是者拜借は無之、彼地江引越候節、書面之通被下之、○略中

一金五拾兩　日光奉行支配組頭

一金五拾兩　新潟奉行支配組頭

是者いづれも引越料として被下之

暇賜與

〔吏徵首卷万石以上〕所司代一人○略中

京都在住　御暇、御刀代金貳拾枚、御馬一疋、金貳拾枚、時服五、羽織、

〔憲教類典三ノ六拜領〕享保十二丁未年三月十日

諸大名御暇之節、大納言樣よりも被下物有筈ニ候、上使之外於殿中申渡、被下物之分は、西丸江御